



農作業メモ

イネカメムシの越冬個体標識調査にご協力お願いします

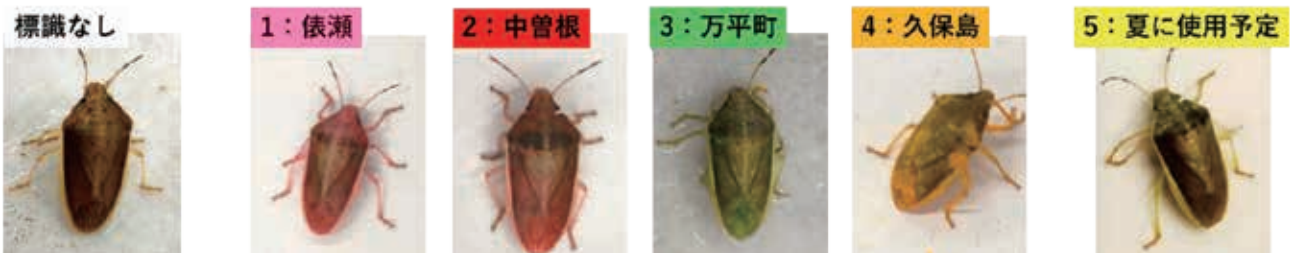
1 イネカメムシの防除について

近年、イネカメムシによる水稻の被害が急増しています。イネカメムシは他と異なり出穂直後から加害し、不稔による収量低下と斑点米による品質低下の両方を引き起こすのが特徴的です。農林振興センターでは、異なる薬剤を用いて出穂期頃、出穂後7〜10日後の2回防除することを推奨しています。なお、スターフル（商系だとアルバリンという名前）、キラップ、エクスシード等の殺虫剤がイネカメムシに特に有効で、次いでトレボンやスミチオンも使用可能です。

2 越冬標識調査について

また、大里農林振興センターでは越冬地にいるイネカメムシに色付けをして標識し、「越冬地からどれくらい遠くに移動するか」「麦あと栽培地帯においてはまず水田に飛び込むのか」

草地に飛び込むのか」等の、防除にかかわる基礎的な生態の知見を収集しています。
去年の12月〜今年の4月にかけて、左記の4か所の越冬地でイネカメムシを各地点千匹程度捕獲し、場所ごとに異なる色で標識しました。



生産者の皆様へのお願い

標識個体を見つけたら、左記連絡先へ情報をお寄せください（発見地点（大字や経緯度、植物、時刻、色、匹数など）。標識個体は7月上旬〜8月中下旬頃に確認される可能性が高く、その後世代交代し見られなくなります。背側で色が判別しにくい場合、腹側だと明瞭なことがあります。なお、標識個体はブラックライトを当てると光ります。また、イネカメムシ調査のため、中干し時期以降の水田に立ち入らせていただく場合がありますことについてご理解賜りますようお願いいたします。

（大里農林振興センター

農業支援部）

☎048-526-2210

